

倫理研究所の創設者・丸山敏雄は、純粹倫理の基礎的な原理として「七つの原理」を説きました。そのうちの一つに「全個皆完の原理」があります。これは、善惡・美醜・完全不完全などの判断を超えて、一切が善いとする原理です。自分の身に起った苦難や問題・課題を受け止め、「これが良い」と思えると自己向上の契機となります。今週はある経営者の体験を紹介します。

某地方都市で牛乳の宅配事業をしているMさん。最近二つの悩みがありました。一つは、コンビニやスーパーが台頭し競合する他社が増えたことや、個人の嗜好の変化により牛乳そのものが飲まれなくなり、売り上げの減少が著しいということです。もう一つは、慢性的な人手不足です。一人の宅配エリアを拡げた結果、ある社員が配達中に車との衝突事故を起こし、入院となつてしましました。一時的な対応として、Mさんも宅配を手伝うこととなり、体と心が疲弊する毎日を過ごしていました。

そんなある日、以前から入会していた倫理法人会で倫理指導を受ける機会を得ました。講師に現状を報告すると、次のように言われたのです。

「Mさん、事情はよく分かりました。しかし、経営難や社員さんの事故は全てMさんの姿勢の反映ですよ。思い当たることはありますか？」

たしかに、現状に一番不足不満を抱いていたのはMさんでした。一家の長男として生まれ、家業を継ぐのが当たり前のように



苦難とどう向き合うか 両親に思いを馳せ一步前進

育てられ、心のどこかに「仕方ない」と思つていました。その一方で、お客様の減少に社員の事故が重なり、自分だけ何でこんな目に遭うのか」と悲嘆していたのです。講師から「先代の亡きご両親に謝つて下さい。そしてこれからは喜んで経営にあたると誓つてくるのです」とアドバイスされたMさん。講師の真剣な眼差しに感化され、すぐに両親のお墓に向かいました。

墓石を前にすると、生前の両親の姿が目に浮かんできました。口数は少なかつたけれども、いつも一緒に遊んでくれた父。世話好きで周囲から頼りにされていた母。両親を思うと自然と涙が溢れました。不甲斐ない自分の姿を両親が見たらと思うと、申し訳ない気持ちになつたMさんは、墓石に向かい両親にお詫びをしたのでした。

この出来事が転機となり、心が前向きになると周囲に変化が訪れました。宅配事業では、コンビニやスーパーで提供している製品を売り出すことになり、これが健康志向の高齢者にヒットし、口コミでお客様が増えていきました。また、社員の入院も長期にならず、すぐに現場復帰してくれました。加えて、新規で社員を募集すると、将来有望な二名が入社してくれたのです。

一連の出来事を通して、少しずつ業績が上向いてきたと感じているMさん。あの時、経営難や社員の事故から逃げず、しっかりと向き合つたことで今があると気づきました。今後も、地域の皆様に愛される会社づくりを目指すことを誓つたのでした。